

中津ロータリークラブ週報

2021-2022年度 中津RC会長テーマ

Join up Rotary! ～ ロータリーに参加しよう ～



第3282回 2021年12月15日 点鐘:12:30

本日の出席者	会 員 数	50名	欠席者 (16名)	事前：		
	出席対象者数	49名		林会員、細川会員、池邊会員、池田会員、柿内会員、三重野会員、峯中会員、仲会員、永岡会員、大東会員、佐藤淳会員、重本会員、末廣会員、高津会員、恒廣会員、和田会員		
	出 席 数	33名				
	出 席 率	67.35%				
3279回の修正	出 席 率	84.00%	メークアップ	林会員、高津会員（東龍IAC）池田会員、峯中会員（Eクラブ）		
	メークアップ	4名				
	修 正 率	92.00%	欠席者	柿内会員、黒田会員、永岡会員、大家会員		
来 訪 者					今週の歌	それでこそロータリー

●会長の時間〔吉田会長〕

早いもので今年も残り半月となりました。それぞれの事業所では年末の忙しい時期を迎えているのではないのでしょうか。意外と思われるかもしれませんが、私の仕事であります司法書士業界は、12月や年度末の3月はそれほど繁忙ではありません。日本では3月決算の法人や企業が多いので、その総会が開催された後の役員変更などの登記が集中する5～6月がピークとなっています。

さて今週は中津3ロータリークラブ合同の忘年例会の予定でしたが、中止となったため通常例会となりました。皆様の事業所では忘年会はどうされたのでしょうか。「新年会の時期はどうなってるか不安なので、忘年会は以前どおりにやる」と話す方がいました。最近コロナも落ちついた傾向にあります。報道によれば忘年会・新年会をやめる企業も多いとのこと、この2年で意識も変わって来てるのではないのでしょうか。中津のお店の前にプレミアム商品券のノボリも目につき、人流も以前のように戻りつつあるように感じます。私の事務所でも仕事納めの日に少人数ですがスタッフと地元のお店で食事しよう計画しています。

さて、この時期恒例の今年の漢字が「金」と発表されました。「金」が選ばれるのは2000年、2012年、2016年に続き4回目。東京五輪で日本人選手が多数の「金」メダルを取ったことが主な理由とのこと。さらに給付「金」や新紙幣、新硬貨など「金」にまつわる話も話題になったことも根拠だそうですが、私はキンにもカネにもあまり縁のなかった年のように思えます。

今日の例会は福島会員の卓話です。来年に向けてキンにもカネにもお近づきになれるような話がきけるものと

楽しみにしております。

●幹事報告〔松下幹事〕

- ・例会変更 中津中央、湯布院
- ・週報回覧 杵築、八代
- ・その他回覧 ハイライトよねやま、「玄朴と長英」お礼、1/12新年家族夜例会出欠確認

●委員会報告

- ・国際社会奉仕委員会〔川島眞之委員長〕
タイへ送る中古靴・書き損じハガキ収集協力をお願い

●ニコニコボックス

〔瀧会員〕地区研修リーダー、米山特別委員会、ロータリー研究会、書籍『ロータリーに入ろう』について。

〔時松会員〕孫が生まれました。

●会員卓話

「2022年の動向について」

福島英治会員



本日はせっかくの機会ということもあり、SMBC日興証券ではなく、私の見解で話させていただきます。

〔相場師の格言〕日本：「まだはもうなり、もうはまだなり」「割高に売りなし、割安に買いなし」「相場師は孤独を愛す」「相場に過去はない」「相場は明日もある」「相場は相場に聞け」ウォール街：「強気相場は絶望の中で生まれ、懐疑とともに育ち、楽観により熟し、陶醉のうちに終わる」

この格言を日本のマーケットに当てはめて検証してみましょう。

(絶望の中) 日本では1945～50年代の戦後復興→(懷疑) 1960～1970年台には所得倍増、オイルショック等、(楽観) イザナギ景気、1980年代後半には円高・金利高・株高の恩恵によるマネーゲーム、つまりバブル(陶醉)。1990年代は「失われた10年」(絶望)。金融機関の破綻、就職氷河期、地下鉄サリン事件や阪神淡路大震災。(懷疑) それが1999年ITバブル。6ヵ月の短い相場でしたしその後3年ほどは株式相場が低迷。為替は緩やかな円安傾向が続き、日本と海外の金利差が大きかったことから対外通貨に投資が増加、海外債券投資がブームに。2006年以降株式相場も持ち直す兆しが見え始めましたが、2008年にまさかのリーマンショック。(楽観) 2010年代に入り、技術革新により世界が大きく変化。市場は当然そのことを「織り込んで」行きます。この「織り込む」は相場を語る上でよく出てくる言葉です。この言葉は相場に関係する会話には非常に使いやすい、便利な言葉です。つまり、上がっても下がっても「織り込み」済みとか、「〇〇の記事はこの銘柄には織り込み済みですよ」とか、下落の下値が見えない場合でも「織り込む」まで下がるでしょうとか、そもそも曖昧な言葉です。環境問題・宇宙産業への取組みと、市場規模は拡大傾向にあります。バブル崩壊前、「楽観」は約20年間でした。今回はまだ10年足らずです。私見ですが、今回の「陶醉」は政府保証紙幣からビットコインのような仮想通貨決済が主流となった時ではないでしょうか。ただし、現マーケット環境は強いと判断します。低金利下におけるマーケットへの税金投与。様々な規制撤廃を受けて各方面で参加者も増加し、競争原理の働く経済環境が大きなマーケットとして定着しつつあります。

昨日の米株はインフレ懸念から下落。本日12/15のFOMCでは来年3回の利上げが見込まれるとのことです。インフレは、賃上げ・アフターコロナ・サプライチェーン需給逼迫・資源高が要因。ただ、コンテナ船滞留はピークから半減し、航空・トラック・鉄道のサプライチェーン緩和に繋がる見通しです。部品調達難からの値上げ＝インフレもいずれ緩和されるでしょう。資源に関しても10～11月ピークとして下落基調。将来的には

脱炭素の流れから資源需要は少なくなる見通しで、資源高騰もそこまで長く続くか懷疑的です。米国を中心とした家計貯蓄、企業内部留保は過去最高を記録。個人消費が落ちることは来年も想定しづらいと考えます。ECBは、インフレ率は今年がピークであり来年～再来年にかけて下落基調となる見通しです。ブラジルは利上げを継続していましたが、インフレピークは今年であるとの見通しです。昨日はトヨタがレクサスを全てEV化にし、EV生産を上方修正したことも今後の時代の潮流です。世の中に資金が溢れている中、インフレになるのは然りです。しかし経済がショックを受けることは想定しづらく、今後は、コロナとの共存含めアフターコロナの経済拡大を期待していいのではないのでしょうか。



先日、大分合同新聞で「SDGs知らないが5割」という記事をみました。SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されます。SDGsは政府や行政も含めた日本全体で取り組んでいくものであるのに対し、ESGは主に投資家が取り組んでいくものといえます。行政も含めたSDGsへの取組みでは、北九州市や大阪府が全国的にも有名です。SDGsアワードの歴代表彰者には、日本青年会議所、魚町商店街振興組合、「九州力作野菜」「果物」プロジェクト共同体等、政官財の取組みがどんどん広がっています。SDGsの取組みはロータリー活動とも共通点があると思います。

●例会のご案内

- 12月29日(水) 祝日週休会
- 1月5日(水) 特別休会
- 1月12日(水) 新年家族夜例会



中津ロータリークラブ週報

国際ロータリー
第2720地区

事務局 〒871-0055 大分県中津市殿町1383-1 中津商工会館2F
TEL 0979-22-6908 FAX 0979-22-6909

E-mail nakatsu.r.c@feel.ocn.ne.jp URL <http://www.nakatsu-rc.com>

例会/毎週水曜日 12:30～13:30 ヴィラルーシェ中津 TEL 0979-23-1122

●2021-2022年度

会長/吉田清勝 幹事/松下幸之助 IT支援・RI情報・公共イメージ委員長/井上光範